



大勢の人で賑わった光秀まつり。子供たちへの たくさんの応援をありがとうございました

校長 松井 克仁

5月3日（水）に開催された「第50回光秀まつり」には、6年生児童の多くが武者行列に参加しました。また、同時に開催された「光秀音頭」にも4・5年生児童が参加して地域の方と一緒に楽しく踊り祭りを盛り上げました。それに先立って4月21日（金）には、6年生が連合自治会長の杉山さんから明智光秀について話を聞きました。明智町と光秀とのかかわりについて熱く語られる杉山さんの話に引き込まれて真剣な眼差しで聞く6年生の姿が印象的でした。

光秀まつり当日は、早朝より子供たちの着付けの手伝いをありがとうございました。着替え終わった子供たちは見違えるような武者・姫君に変わっていました。武者行列では恥ずかしさを見せながらも堂々とした姿で歩いていました。これからも6年生は明智光秀や山本芳翠ら地元の偉人について学習をしていきます。学校運営協議会や地域の方と連携しながら、協議会スローガン「ふるさと明智の未来の担い手を育む」に向けて、様々な取組を進めていきます。「光秀まつり」は、子供たちにとって明智町の一員として明智の自慢を実感できた貴重な経験となったことでしょう。



たった1つの命を守るために

5月15日（月）に全校で「交通安全教室」を行いました。明智駐在所長の今井さん、恵那市交通指導員の石田さん、瀬戸さん、恵那市交通安全女性連絡協議員の保母さん、堀谷さん、佐々木さんに来ていただき、横断歩道の渡り方、班旗の正しい使い方（以下参照）を確認しました。

【横断歩道の渡り方】・・・地域でも一緒に確認をしてくださると、一層意識が高まります。

- （1）横断歩道の手前では、班長と副班長は旗を出して列を止め、左右の安全を確認する。
- （2）列に並ぶメンバーは、一度に素早く渡れるように列の前方へ詰めて渡るのを待つ。
- （3）左右の安全が確認できたら横断歩道を渡る。このとき、リーダーは旗を運転手等によく見えるように示しながら進み、全員を安全に渡し終える。



学校で学んだことが普段の生活に生かせなければ意味がありません。大切な自分たちの命を守るために、リーダーはメンバーの安全に気を遣い、メンバーはリーダーの指示を聞きながら自分自身で安全確認をしてほしいと考えています。先日も佐賀県で下校中の児童の列に車が突っ込んで児童がけがをするというニュースがありました。

毎朝交差点で登校指導をしていると、横断歩道を渡り終えた後、止まってくれた運転手に「ペコン」と頭を下げる子供の姿を見かけます。運転手は急ぎたいところですが、子供たちのために停まって渡り終えるのを待っていてくれます。このように感謝の気持ちを精一杯の行動であらわそうとする場面を見ると、止まってくれた運転手も、見ている周りの人たちも温かい気持ちになります。

